

第3章 地域別構想



地域別構想

■ 地域区分の設定

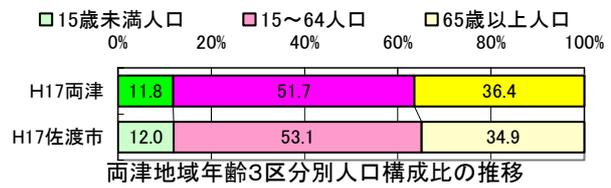
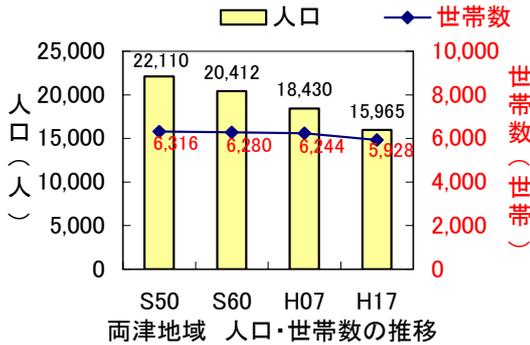
佐渡市都市計画マスタープランでは、地形、生活圏の視点から、市域を大きく以下の4地域に区分し、それぞれの地域の整備目標や整備方針を示します。



1. 両津地域

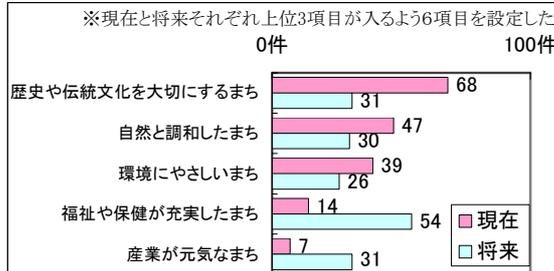
【地域の現状】

- ・ 佐渡市北東部、旧両津市の区域
- ・ 全体面積のうち、山林地が半分以上、水田が3割程度
- ・ 人口、世帯数ともに減少傾向
- ・ 65歳以上高齢者比率が36.4%で市平均をやや上回る

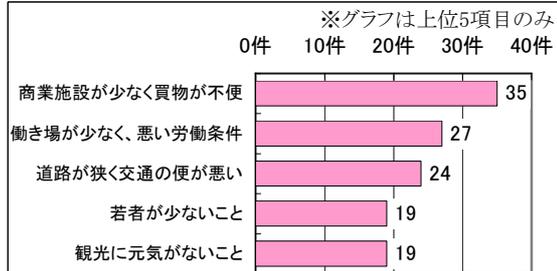


【アンケート結果】

・ 佐渡市の「現在のイメージ」と「将来のイメージ」は何ですか？



・ 佐渡の「良くないところ、改善したいところ」はどこですか？



【地域の声】～地域ワークショップ（全2回で出された意見）～

■ 改善すべき環境（第1回より）

- ・ 表玄関としての賑わい不足
- ・ 狭隘道路（県道・市道・横宿線）、渋滞
- ・ 人工的な海岸整備、山林・水田の荒廃
- ・ 商店街（両津）・飲食店の衰退
- ・ 過疎化の進行（大川地区～岩首地区、馬首地区～鷺崎地区）
- ・ 高度医療の欠如
- ・ まちづくりのアイデア不足

■ 守りのばすべき環境（第1回より）

- ・ 港町の風情（玄関口、団結力）
- ・ 豊かな自然（海・山・温泉・食）、景観（加茂湖）
- ・ のんびりした生活リズム
- ・ 両津湊の団結力とエネルギー

■ まちづくりの取り組み（第2回より）

- 加茂湖を中心とした自然と食の活用
 - ・ 加茂湖周辺の整備、加茂湖の味覚のPR
- 安全・快適で観光客にも魅力的な商店街
 - ・ 日用品の充実、定期市PR、防災対策、国県道利用の柔軟性、空き家対策
- 車・バス・歩行者それぞれの利便性の確保
 - ・ 渋滞の解消と拡張、バス利便性向上
- 自然を守り、誰もがのびのび暮らせる地域
 - ・ 子ども向け公園整備、きれいな海、地産地消の実現、まちのコンパクト化とバスの連携

両津地域の課題

【佐渡の玄関口としての魅力の向上】

- ・多くの来訪者が集まる両津港周辺の利便性・快適性の向上
- ・既存の夷、湊商店街の活性化と賑わい回復

【自然環境の保全と経済発展の共生】

- ・加茂湖の景観を活かした交流の場の創出と親水性の向上
- ・山林、水面の保全とホタル飼育など環境に優しい環境の形成
- ・第一次産業の保全活用と持続可能な地域社会の構築

【安全・快適・便利な居住環境の整備】

- ・沿岸部小規模集落のコミュニティ維持と快適な生活環境の確保
- ・災害時の代替道路確保など安全安心な道路網整備
- ・密集市街地や狭小道路等の解消など、災害に強い地域づくり

両津地域の将来目標

1. 加茂湖と港の活気あるまち

佐渡市の玄関口である両津港は、交通結節点としての機能拡充と来訪者の利便性に配慮した整備を推進します。また、既存の夷・湊商店街や加茂湖周辺整備、北埠頭開発などとの連携により、多くの人が集い、交流し、賑わう、活力ある地域を目指します。

2. 人・自然・経済がつながり持続的に発展するまち

加茂湖、水田、山林、海岸の周辺の美しい自然景観やトキが棲む良好な環境を大切に保全活用する一方で、地域産業の活性化、雇用支援、地産地消推進などの経済活動にも力を入れることにより、相互が共生しながら持続していく地域を目指します。

3. 安全、快適に暮らせるまち

密集市街地における安全性確保や狭小道路の改善、土砂災害や波浪被害対策など、地域の特性に応じた対応により、安全安心に暮らせる地域づくりとともに、便利、快適でうるおいのある生活環境の地域づくりを目指します。

両津地域の整備方針

1. 加茂湖と港の活気あるまちづくりの方針

【両津港周辺の整備】

- ・佐渡の玄関口である両津港においては、快適な待合い空間や案内サービスの充実、公共交通への円滑な乗り継ぎなど、交通拠点としての機能拡充を図ります。
- ・自動車で両津港を利用する市民等の利便性向上を目指し、総合的な交通対策手法を検討します。
- ・両津港周辺においては来訪者が佐渡に着いたことを認識できる景観、雰囲気づくりに配慮した整備を促進します。
- ・北埠頭では、観光振興及び地域の活性化につながる魅力的な土地利用への転換を推進します。



【加茂湖周辺の整備】

- ・加茂湖周辺は、日常的な散策やジョギング、サイクリング、魚釣りや水遊びなどができる、親水性のある湖岸環境の整備を図ります。
- ・また、加茂湖周辺には能楽の里や本間家能舞台、郷土資料館といった観光施設の他、トキの生息地である新穂に近接していることから、これら観光資源との連携を視野に入れたネットワークの形成と交流人口の拡大を目指します。



【既存商店街の整備】

- ・夷商店街や湊商店街など地域コミュニティの核となる商店街については、風情と賑わいのあるまちなみを誘導し、買い物とともに、散歩や休憩も可能な快適で潤いのある滞留空間の整備や緑化を図ります。
- ・市街地内を走る既存の国県道が祭りやイベント開催時に歩行者天国として利用できるなど、柔軟な利活用ができるよう関係機関に働きかけます。
- ・狭小道路で駐車スペースの確保が困難な状況にある一方で、自家用車によるアクセスが多いため、路上安全面や遠方からの購買者の利便性を考慮してコミュニティバスやパークアンドライドなどの導入を検討します。



2. 人・自然・経済がつながり持続的に発展するまちづくりの方針

【交流人口の拡大】

- ・夷、湊両商店街で行われている個々のイベント（手楽子屋、うまいもんや、佐渡國鬼太鼓どっとこむ、湊いきなど）の開催を支援し、交流空間の整備や交通手段の確保など、地域内外からも多くの人々が訪れ楽しめる環境の整備を促進します。

【自然環境の保全】

- ・加茂湖は鳥獣保護区に指定され、白鳥やカモ、サギ類など多くの鳥類が生息していることから、良好な自然環境の保全を図ります。
- ・市民が身近に親しめる水と緑の確保に向けて、眺望に配慮した港周辺の緑化、海浜や河川、ため池を活用した水辺環境の整備、民有地の緑化、優良農地の保全を図ります。
- ・加茂湖に映る金北山など、特徴的な美しい景観の保全を図ります。
- ・地域の南北に広がる大佐渡、小佐渡の山林地はその景観や自然を保全し、トキと共生できる良好な環境の維持継続を図ります。



【地域資源を活かした活性化】

- ・両津港で捕れた魚介類や加茂湖の味覚であるカキ等の地域特有の味覚を気軽に楽しめる環境を整備するなど、交流人口の拡大につなげます。
- ・久知河内でのホテル鑑賞など、自然環境を活用した資源の活用による交流の促進を図ります。

3. 安全・快適に暮らせるまちづくりの方針

【都市災害の防止】

- ・市街地の防災性向上を図るため、建物の不燃化や防火施設の充実、防災体制の強化などを促進します。
- ・老朽化した木造密集住宅は、地権者の合意を図りつつ居住環境の改善に努めます。



【自然災害の防止】

- ・高潮や大雨時の浸水被害を低減するため、高潮浸水対策や河川整備を関係機関に働きかけます。
- ・急傾斜地における地滑りや崖崩れ対策などを関係機関に働きかけ、既存の宅地や道路の安全性確保を図ります。

【住宅地の整備】

- ・生活基盤が整った市街地内において、民間による高齢者対応住宅の整備を支援します。
- ・幹線道路沿道においては、店舗併用住宅など職住融合による利便性向上とともに、空き家・空き地を利用した憩い・交流空間の形成を図ります。

【集落環境の維持】

- ・既存集落地においては、基幹集落や市街地への交通の確保とともに、道路や下水道など、生活基盤の改善を図ります。
- ・また、地域活力の維持を図るため、田園住宅の整備も視野に入れた定住・交流人口の維持確保を検討します。

【安全安心な交通網の整備】

- ・慢性的な渋滞解消のため国道 350 号両津バイパスの早期整備を関係機関に働きかけます。
- ・主要地方道両津真野赤泊線は、主として観光客の利便性向上を図るため、適切な案内誘導によりターミナル付近の円滑な交通流を確保します。
- ・海岸沿いを走る主要地方道佐渡一周線は、市街地と集落を結ぶ生活機能の他、観光ルートとしての役割も果たすことから、安全快適な走行環境の確保を図ります。
- ・その他、国県道における部分的な渋滞発生の原因となるボトルネックの解消を目指します。
- ・病院、市役所等が立地する国中方面や地域内の商業地などへ、車を持たない人たちも快適に移動できる公共交通網の確立を検討します。

【都市施設の整備】

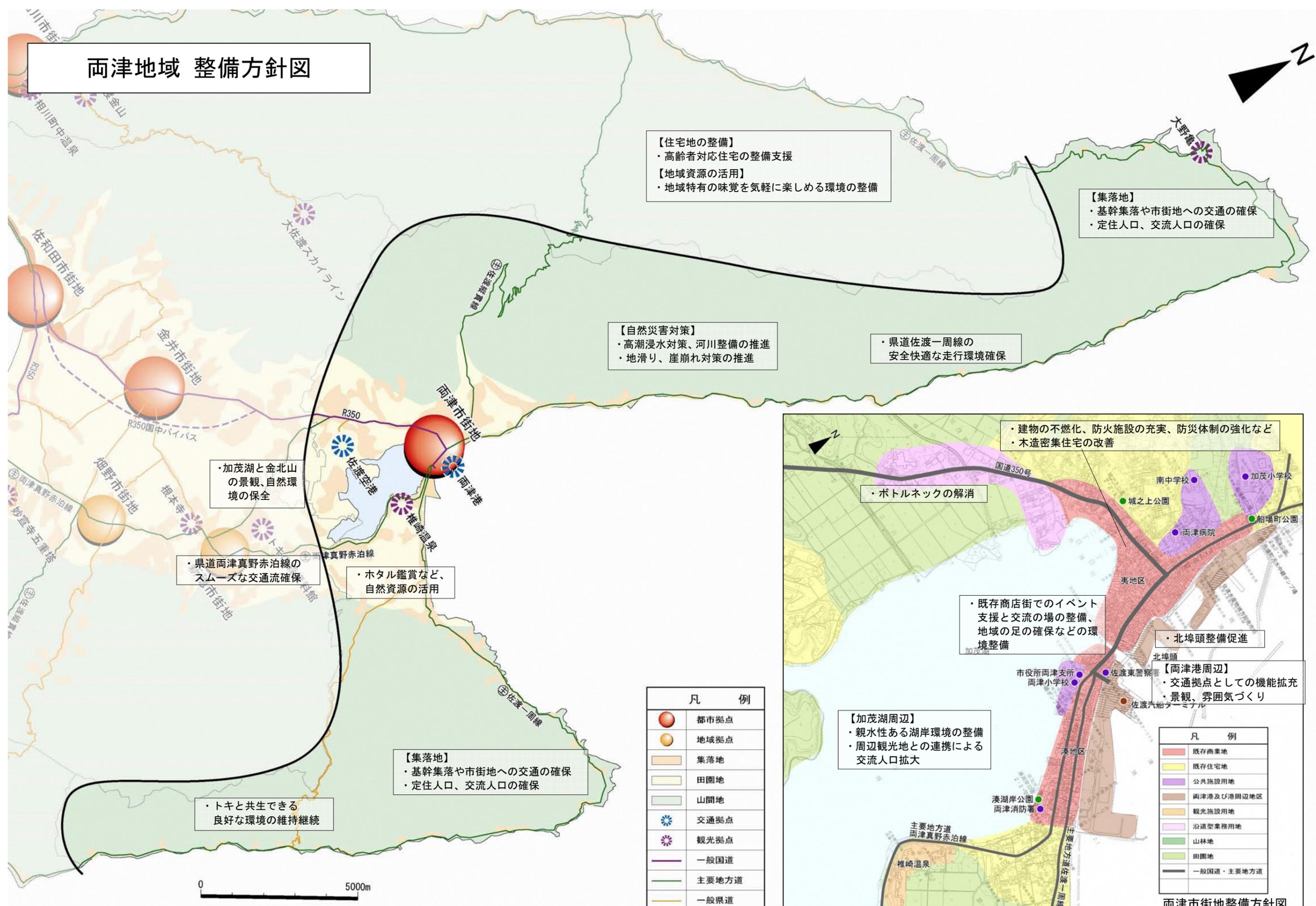
- ・健康、スポーツ・レクリエーション需要の高まりへの対応と地域の賑わいや交流の創出を図るため、総合的な交流施設の整備を検討します。
- ・身近な公園の整備など、子どもたちが遊べる環境を創出します。



【防犯防災のまちづくり】

- ・道路や公園などの都市施設の整備にあたっては、死角をつくらないなど犯罪の発生しにくい施設整備の他、地域コミュニティの結束強化により防犯機能の強化を図ります。
- ・商店街にある空き家は、防犯防災の観点からも有効な活用による解消を目指します。

両津地域 整備方針図



【住宅地の整備】
 ・高齢者対応住宅の整備支援
【地域資源の活用】
 ・地域特有の味覚を気軽に楽しめる環境の整備

【集落地】
 ・基幹集落や市街地への交通の確保
 ・定住人口、交流人口の確保

【自然災害対策】
 ・高潮浸水対策、河川整備の推進
 ・地滑り、崖崩れ対策の推進

・県道佐渡一周線の安全快適な走行環境確保

・加茂湖と金北山の景観、自然環境の保全

・県道両津真野赤泊線のスムーズな交通流確保

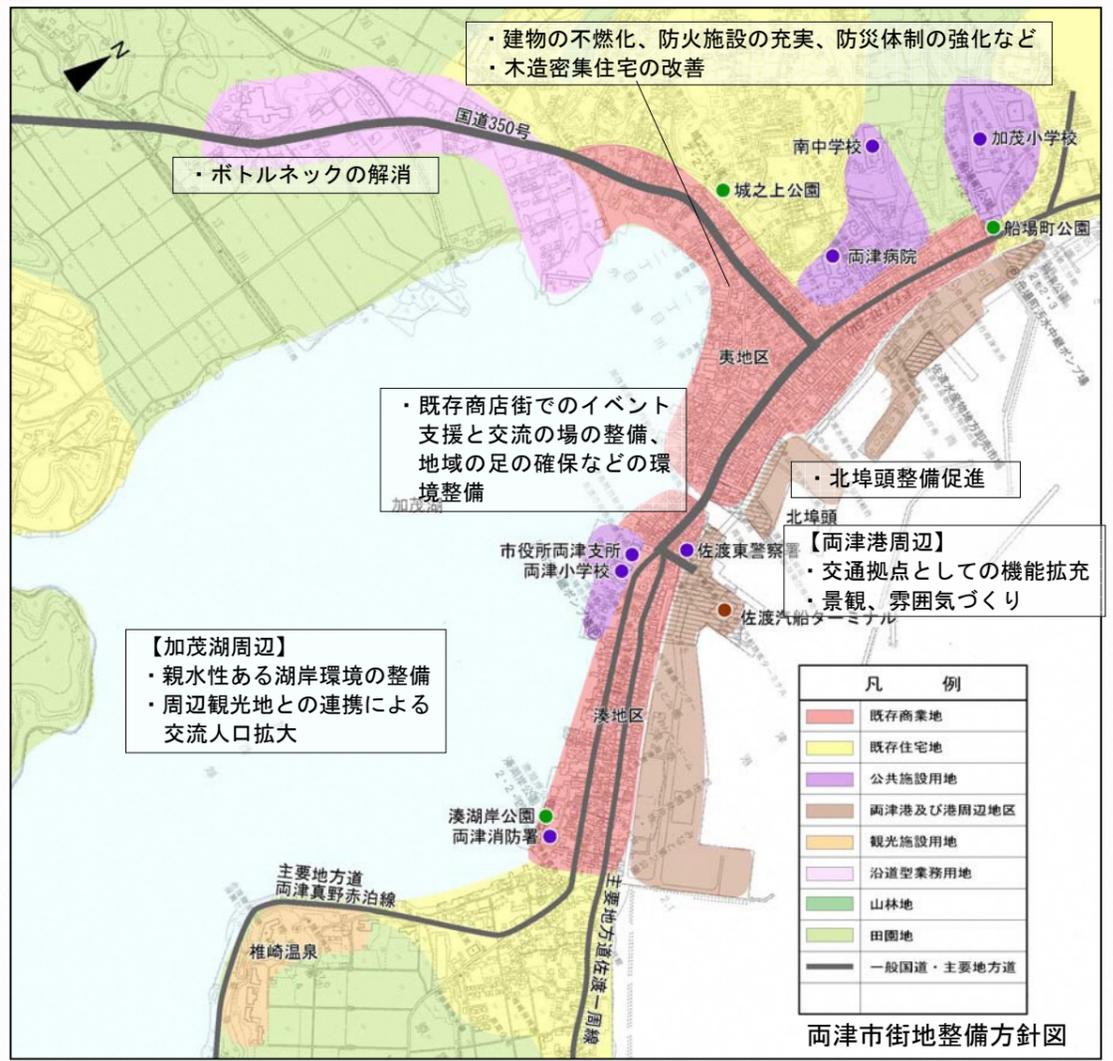
・ホテル鑑賞など、自然資源の活用

【集落地】
 ・基幹集落や市街地への交通の確保
 ・定住人口、交流人口の確保

・トキと共生できる良好な環境の維持継続



凡 例	
●	都市拠点
●	地域拠点
	集落地
	田園地
	山間地
✪	交通拠点
✪	観光拠点
	一般国道
	主要地方道
	一般県道



・建物の不燃化、防火施設の充実、防災体制の強化など
 ・木造密集住宅の改善

・ボトルネックの解消

・既存商店街でのイベント支援と交流の場の整備、地域の足の確保などの環境整備

・北埠頭整備促進

【両津港周辺】
 ・交通拠点としての機能拡充
 ・景観、雰囲気づくり

【加茂湖周辺】
 ・親水性ある湖岸環境の整備
 ・周辺観光地との連携による交流人口拡大

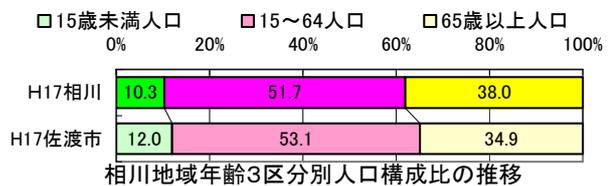
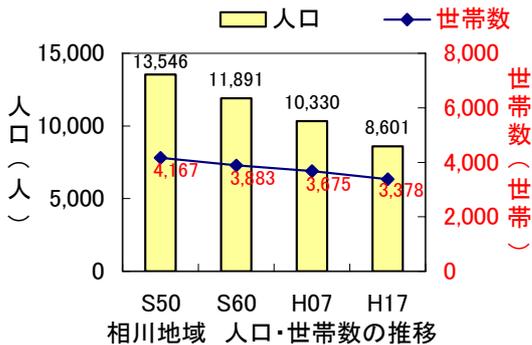
凡 例	
	既存商業地
	既存住宅地
	公共施設用地
	両津港及び港周辺地区
	観光施設用地
	沿道型業務用地
	山林地
	田園地
	一般国道・主要地方道

両津市街地整備方針図

2. 相川地域

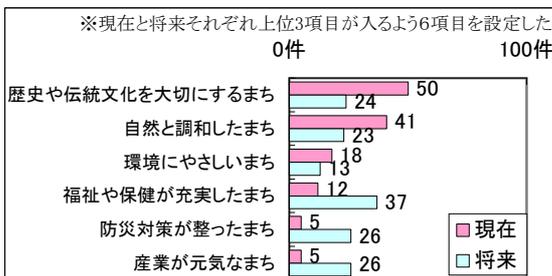
【地域の現状】

- ・佐渡市北部、旧相川町の区域
- ・全体面積のうち、山林地が9割近くを占める
- ・人口、世帯数ともに減少傾向
- ・65歳以上高齢者比率が38.0%で市平均を上回る

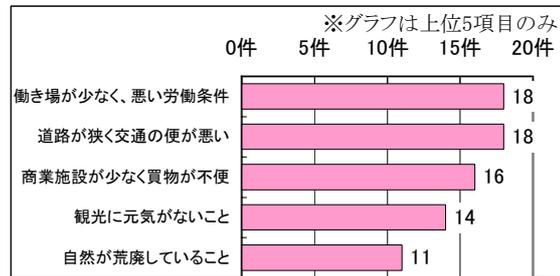


【アンケート結果】

・佐渡市の「現在のイメージ」と「将来のイメージ」は何ですか？



・佐渡の「良くないところ、改善したいところ」はどこですか？



【地域の声】～地域ワークショップ（全2回で出された意見）～

■ 改善すべき環境（第1回より）

- ・限られた土地、空き家の崩壊
- ・道路の安全性、両津へのアクセス不備
- ・少ないバス便数
- ・海岸景観破壊、海洋汚染
- ・商店街の賑わい不足、駐車場不足
- ・伝統文化の保全・継承不足
- ・観光宣伝・ホスピタリティ不足
- ・高齢者憩いの場の欠如
- ・若者の働く場の不足
- ・限界集落増加に伴う介護不安
- ・住民の改善・協力意欲の欠如
- ・防災インフラの不足

■ 守りのばすべき環境（第1回より）

- ・豊かな自然、歴史文化、景観
- ・新たなまちづくり行事
- ・佐渡金山の世界遺産としての可能性
- ・豊富な自然エネルギー

■ まちづくりの取り組み（第2回より）

- 海岸環境の保全
 - ・自然環境保全区域指定、シーレーン等の整備
- 地域密着型の居住、交通、福祉、防災体制
 - ・限界集落の孤立抑制、防災・緊急医療、U I ターンと空き家活用、緊急時の代替ルート
- 伝統文化の魅力向上
 - ・教育を通じた伝統文化保存、観光客の意向聴取
- 佐渡ブランドの経営力の強化
 - ・佐渡牛、しいたけ、海産物のブランド化、支援
- 観光振興と地域振興の調和
 - ・金山遺跡の保全と観光活性化、住民の生活利便性確保

相川地域の課題

【歴史文化資源の活用】

- ・ 佐渡金山、奉行所、京町通りなど既存観光地の更なる魅力向上
- ・ ひなまつりなど、新たな交流資源の発掘と相互連携
- ・ 来訪者がゆっくり楽しみながら観光地を回遊できる環境づくり

【特徴的な自然条件の活用と保全】

- ・ 外海府海岸、七浦海岸など、美しい海浜景観の保全
- ・ 山と海に挟まれた限られた制約の中での有効な土地利用推進
- ・ 佐渡牛、とれたての海産物など佐渡産ブランドの確立と活用

【コミュニティ維持と安全・便利な地域づくり】

- ・ 海岸沿いの小規模集落のコミュニティ維持と生活基盤の整備
- ・ 災害時や緊急時における集落地の孤立化の防止
- ・ 既存商店街における都市機能の連携強化による利便性向上と賑わい創出
- ・ 長期未着手都市計画道路のあり方の検討

相川地域の将来目標

1. 金山とともに育まれた歴史・文化を活かすまち

佐渡金山のまちとして古くから栄えた、歴史と伝統のある相川市街地周辺については、多くの観光資源を活用した地域の活性化に努めるとともに、既存商店街の機能充実と賑わいの再生を目指します。

2. 風光明媚な自然の中でゆったりと暮らせるまち

七浦海岸や外海府海岸などの美しい海岸、金北山や妙見山をはじめとした山林などの自然環境・景観を大切に保全するとともに、これら資源を活用したスローライフの推進など、ゆとりのある生活環境の形成を目指します。

3. 地域の支え合いと安全・安心なまち

既存集落地における生活基盤の整備や交通手段の整備に努め活力の維持を図るとともに、地域コミュニティによる防災、住環境改善を推進し、便利で暮らしやすい生活環境の形成を目指します。また、災害時等の集落孤立化の解消も目指します。

相川地域の整備方針

1. 金山とともに育まれた歴史・文化を活かすまちづくりの方針

【交流人口の拡大】

- ・佐渡奉行所や技能伝承展示館、佐渡版画村美術館など金山周辺の歴史・文化遺産との連携強化により、観光資源としての魅力向上と交流人口の拡大を図ります。
- ・「佐渡國相川ひなまつり」開催時における臨時バスの運行など、市民団体や地域住民による新しいまちづくりの取り組みを支援していきます。



【まちの賑わい回復】

- ・段丘上の歴史文化を感じさせる京町通りや寺町周辺は、観光資源としての保全と賑わいある環境形成を目指します。
- ・海岸沿いの地区は従来からの農漁村の佇まいと商業の賑わいが融合した、趣きと活気のあるまちなみの形成を図ります。
- ・相川支所、郵便局、銀行等の施設と商店街が立地する相川市街地においては、既存のコンパクトなまちの条件を有効に活用し、更なる生活利便施設の充実と歩行空間の整備、ネットワーク化を促進します。
- ・周辺集落等から商店街を利用する住民のための駐車場整備を図ります。



【伝統文化の継承】

- ・地域の恒例行事となっている「宵の舞」や「相川まつり」、「おけさまつり」などの後世への継承を図るとともに、重要な交流資源として活用していきます。

2. 風光明媚な自然の中でゆったりと暮らせるまちづくりの方針

【海岸の保全】

- ・尖閣湾、七浦海岸など、佐渡ならではの豊かな海浜景観の保全を図るため、地域状況を勘案しながら条例制定なども視野に入れた手法の検討を行います。
- ・海水浴やキャンプ、釣りなどを目的とした多くの観光客が訪れる自然資源として、きれいな海の保全を図ります。



- ・海洋性リゾート地域として季節居住者や合宿地の整備を図ります。

【山林地の保全】

- ・金北山や妙見山など 1,000m を越える山など地域の大部分を占める山林地は、緑のダム、CO2 吸収、景観形成などの視点から維持保全を図ります。



【スローライフの環境整備】

- ・金北山麓で放牧された佐渡牛や佐渡産しいたけ等の農産物、外海府の海で捕れた魚介類など、地元でしか味わうことができないブランド品としての価値を高め、島外からも人が集まり、これらの味覚を楽しめるような環境の整備を目指します。
- ・海岸線に沿った歩行者・自転車共用道路整備など、自然景観を楽しみながら余暇活動ができる環境形成を目指します。

3. 地域の支え合いと安全・安心なまちづくりの方針

【都市災害の防止】

- ・古くからの味わいある街並みが残されている木造住宅密集地は、今後とも歴史的な趣きを保全しながらも建物不燃化や耐震化、防災体制の強化などを必要に応じて図ります。



【自然災害の防止】

- ・相川地域は、山と海に挟まれた土地利用に制限のある地域であることから、急傾斜地対策や宅地開発規制等の推進により、災害に強いまちづくりを推進します。
- ・高潮や大雨時の浸水被害を低減し、安全な生活環境を確保するため、高潮浸水対策や河川整備を関係機関に働きかけます。

【コミュニティの維持】

- ・地域内の空き家を活用した高齢者の憩いの場や多世代交流の場づくりを図ります。
- ・コミュニティの結束による緑化活動など美化活動の推進とともに、地域防災力や介護力の強化を図ります。

【集落環境の維持】

- ・既存集落地においては、基幹集落や市街地への足の確保とともに、道路や下水道など、生活基盤の改善を図ります。
- ・海岸沿いに位置する集落などが災害時に孤立することがないように、既存の林道などを活用し、緊急時の代替路の確保を図ります。

【快適な交通手段の確保】

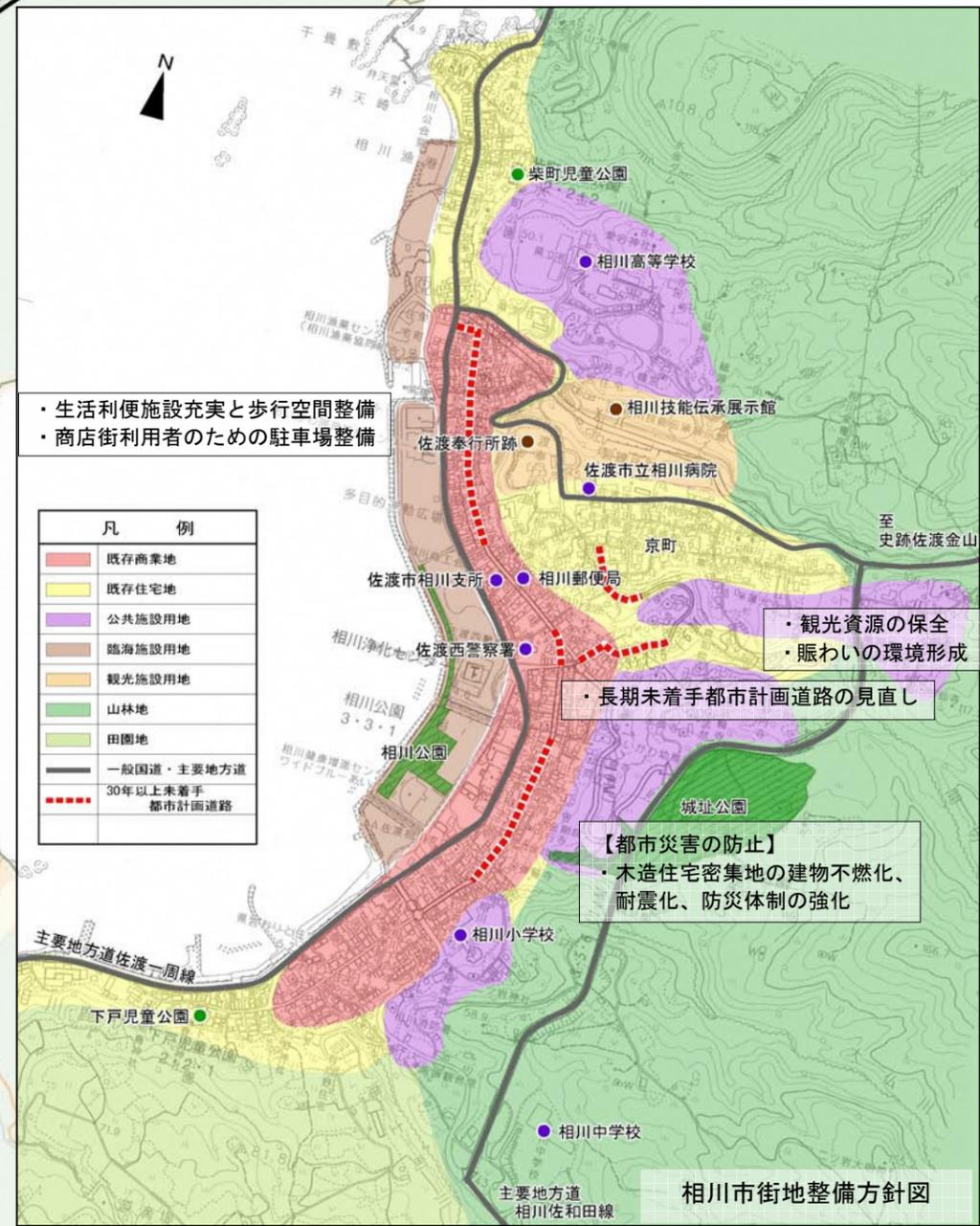
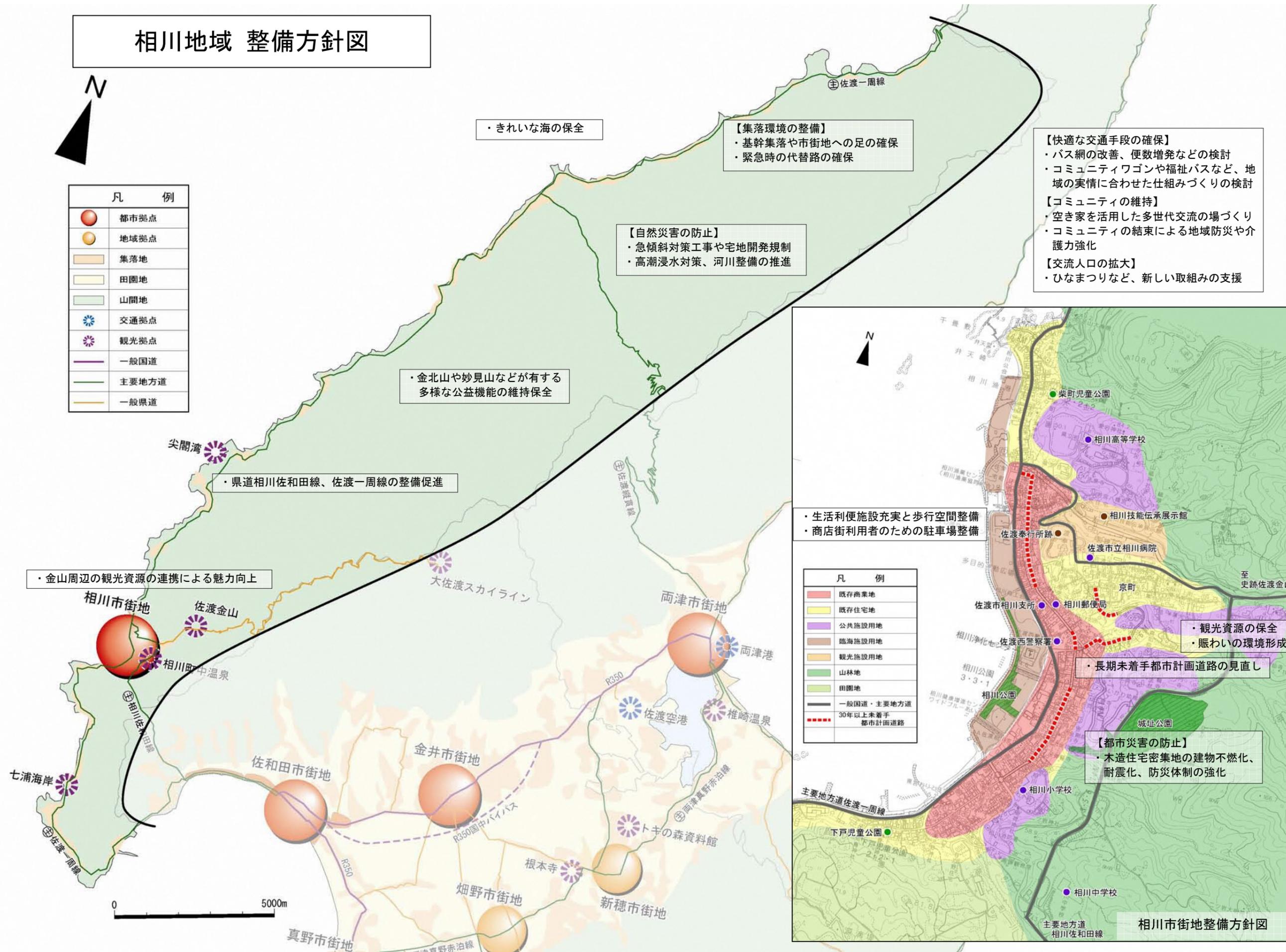
- ・両津や佐和田、金井、小木など島内の拠点へのアクセス向上のため、県道相川佐和田線、佐渡一周線の整備を関係機関に働きかけます。
- ・未整備の都市計画道路については、必要に応じて変更や廃止を検討し、計画的な整備を推進します。
- ・集落から相川市街地や他地域への交通利便性を確保するため、バス網の改善などを検討します。
- ・集落間の交通ネットワークを確保するため、コミュニティワゴンなど、地域の実情に合わせた仕組みを検討していきます。



相川地域 整備方針図



凡 例	
	都市拠点
	地域拠点
	集落地
	田園地
	山間地
	交通拠点
	観光拠点
	一般国道
	主要地方道
	一般県道



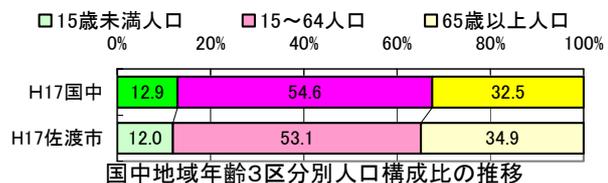
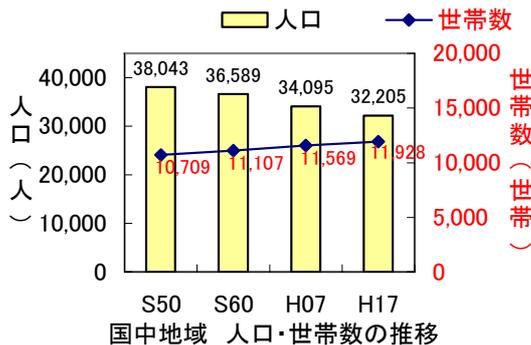
凡 例	
	既存商業地
	既存住宅地
	公共施設用地
	臨海施設用地
	観光施設用地
	山林地
	田園地
	一般国道・主要地方道
	30年以上未着手都市計画道路

相川市街地整備方針図

3. 国中地域

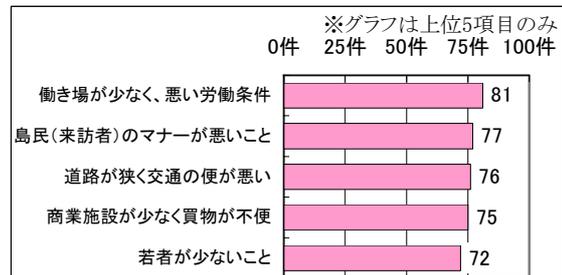
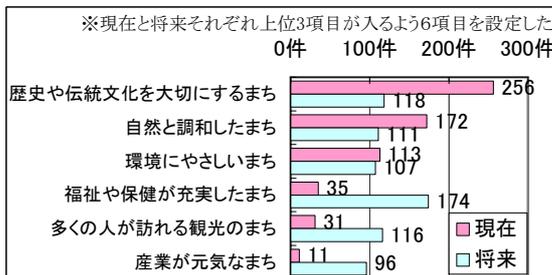
【地域の現状】

- ・ 佐渡市中央部、旧佐和田町、金井町、新穂村、畑野町(松ヶ崎地区を除く)、真野町の区域
- ・ 全体面積のうち、山林地が約6割、水田が3割程度
- ・ 人口は減少傾向、世帯数は増加傾向
- ・ 65歳以上高齢者比率が32.5%で市平均をやや下回る



【アンケート結果】

- ・ 佐渡市の「現在のイメージ」と「将来のイメージ」は何ですか？
- ・ 佐渡の「良くないところ、改善したいところ」はどこですか？



【地域の声】～地域ワークショップ(全2回で出された意見)～

■ 改善すべき環境 (第1回より)

- ・ 道路整備推進と渋滞解消
- ・ 生活道路、歩道・自転車専用道路の整備
- ・ 街灯・案内板(復路)不足
- ・ 公園のセンスアップ、子どもの遊び場不足
- ・ 中心市街地の衰退、古施設のリニューアル
- ・ 人工的な海岸整備、山林・水田の荒廃
- ・ 古道・街道(相川・小木街道)の活用
- ・ 河川管理の工夫(活用しながら)
- ・ 自然エネルギー、環境保全対策の推進
- ・ 工業誘致、ものづくりのまちづくり
- ・ 集落コミュニティの崩壊
- ・ 病院体制の強化、防災対応

■ 守りのばすべき環境 (第1回より)

- ・ 豊かな自然、景観
- ・ 島内のアクセス拠点
- ・ 商業地域の利便性(佐和田、国道沿道)
- ・ 沿道緑化(ポット植栽)
- ・ 農業若手後継者の出現

■ まちづくりの取り組み (第2回より)

- トキの棲む佐渡の環境づくり
 - ・ 生態系に配慮した整備、休耕田の利活用…
- 景観に関する規制(沿道広告物、自然景観…)
- 観光資源の一体化、ネットワーク化等
 - ・ 観光資源のネットワーク化と連携…
- 新たな産業スタイル
 - ・ 農業多角化、若者定住型産業、広域通勤圏
- 施設の有効利用(中心市街地空店舗活用)
- 生活利便性の充実(地域拠点)
 - ・ 日用品充実、居場所整備、ボランティア等
- 円滑な交通流確保と歩行環境の充実
 - ・ 渋滞解消、病院周辺整備、歩道、外灯等
- 自然を活かした活動促進型の施設整備
 - ・ 体験型公園、スポーツ合宿施設整備
- コミュニティ環境の維持
 - ・ 地域行事の活性化、ハザードマップ作成

国中地域の課題

【都市機能の充実とアクセス向上】

- ・ 佐渡総合病院や市役所等の公共施設の機能強化とアクセス・歩行環境の改善
- ・ 既存観光資源の連携とネットワーク化による魅力向上
- ・ 中心商業地の再生、賑わい回復（既存商業と大規模店舗の棲み分け）
- ・ 周辺地域へのアクセス向上のための放射状の道路網整備

【自然環境保全・循環型社会の形成】

- ・ 市街地外縁部への無秩序な拡大の抑制
- ・ トキとの共生を前提とした自然環境・農業環境の保全と改善
- ・ 国中平野と大佐渡、小佐渡山地の景観の保全

【若者定着と安心快適な地域】

- ・ 人口減少集落のコミュニティ維持
- ・ 若者が働き、暮らし続けるための環境整備
- ・ 多世代が交流できる場の整備、創出

国中地域の将来目標

1. 佐渡の中核機能を担う暮らしのまち

佐渡市の中心として、行政、医療、商業等の都市機能が連携し、高度な都市サービスを楽しむ地域を目指した整備を進めます。また、秩序ある土地利用コントロールの推進により美しく活力のある地域づくりを目指します。

2. トキと共に安心して暮らし続けられるまち

トキの試験放鳥に合わせて、山林や農地などの自然環境の保全を図るとともに、環境の島佐渡にふさわしい持続可能な都市環境づくりを目指します。

3. 子どもが健全に育ち、若者が定着するまち

地域コミュニティによる集落活力の維持を図るとともに、生活基盤整備や地域の足の確保による生活利便性の向上を図り、誰もが安心して暮らせる集落環境の形成を目指します。また、若者定住のため、魅力ある雇用環境の創出を目指します。

国中地域の整備方針

1. 佐渡の中核機能を担う暮らしのまちづくりの方針

【道路網の整備】

- ・市内中心部の幹線道路である国道 350 号の渋滞解消に向けて国中バイパスの整備を関係機関に働きかけます。
- ・国道 350 号と並走する主要地方道両津真野赤泊線は主に来訪者が楽しめる観光ルートとして、往復での案内誘導や沿道景観の整備などを図ります。
- ・主要な広域都市軸や地域幹線道路と各集落を結ぶ生活道路の充足を図ります。



【道路沿道環境の整備】

- ・幹線道路沿道については、まちなみ景観形成や緑化、屋外広告物の規制を誘導するなど、良好な沿道景観の形成を図ります。
- ・市民生活の快適で安全な歩行空間や自転車道の確保を図ります。

【市街地拡散の抑制】

- ・優良農地等における無秩序な市街地拡大を防止するため、市街化の動向を踏まえながら、既存市街地内未利用地への適切な土地利用誘導を優先して行います。
- ・幹線道路の沿道など、用途地域の指定がなく、既に大規模店舗が立地する地区については、農業や環境政策との調整を図りながら、規制誘導手法の検討等により計画的に土地利用を誘導していきます。
- ・国中平野一帯の農地については、佐渡市を代表する安全で安心な食料の供給基盤として、コンパクトなまちづくりの方針を踏まえながら、その保全を図り、都市と農業が効果的に共存し循環する地域形成を目指します。



【金井市街地の整備充実】

- ・島内の総合医療の中核を担う佐渡総合病院を中心に、歩道整備やバリアフリー化、ポケットパーク整備など、高齢化社会にも対応した環境整備を図ります。
- ・また市役所庁舎を含めた都市サービス機能へのアクセス環境の改善を図ります。
- ・専門学校の学生のための居住環境整備や生活利便性の向上を図ります。

【佐和田市街地の活性化】

- ・河原田の既存商業地域においては、空き店舗の活用や駐車場整備の他、定期的な市やイベントの開催等により、中心市街地としての賑わいの回復を図ります。
- ・主要地方道佐渡一周線沢根バイパスの整備を推進するとともに、既存の県道を沢根地区のまちづくりに活用できるように検討します。



【地域拠点（新穂・畑野・真野市街地）の整備】

- ・新穂、畑野、真野市街地については、建物密集地における防災性強化の他、既存の日用品店舗や診療所、郵便局など地域の生活に密着した機能の維持を図ります。
- ・特に現在都市計画区域の指定がない新穂市街地については、他の地域拠点と同様に人口や各種都市施設が集積し、都市活動領域として一体的な圏域を形成していることから、都市計画区域への編入を検討していきます。
- ・トキの森公園や根本寺（新穂）、妙宣寺や真野御陵（真野）など、周辺にある観光施設との連携により、来訪者との交流のある市街地の形成を目指します。



【その他住宅地の整備】

- ・幹線道路沿道においては、店舗併用住宅など職住融合による利便性向上とともに、空き家・空き地を利用した憩い・交流空間の形成を図ります。
- ・田園地域においては、屋敷林の保全や生垣などにより自然や周囲の景観と一体となった集落地の形成を図ります。



【歴史・文化資源の保全と活用】

- ・歴史的・文化的価値の高い寺社仏閣等は、観光資源としての魅力向上とともに、市民が学習し、交流できる場としての環境づくりを図ります。
- ・真野公園は観光資源としての魅力向上と市民の憩い空間としての活用を図ります。
- ・文弥人形、やぶさめ、鬼太鼓など古くから伝わる伝統芸能の伝承に努め、多世代交流や地域の活性化につなげます。



2. トキと共に安心して暮らし続けられるまちづくりの方針

【山林の保全】

- ・トキの営巣地ともなる松林の松枯れを食い止め、また、豊かな自然環境を後世に残すためにも、山林の保全と林業の活性化を図ります。
- ・金北山や妙見山は地域の景観シンボルとして、山容の保全を図ります。



【農地の保全】

- ・おいしくて安全な佐渡産米の生産基地として国中平野の優良農地を保全します。
- ・小倉棚田などの棚田は良質米の生産と後世へ継承すべき文化財としての美しい景観形成とともに、保水機能が山崩れや地滑りを防ぐ役割を果たしていることから、積極的に保全していきます。



【水辺空間の保全】

- ・国府川及び支川においては、用水、治水機能の維持確保とともに、沿岸散策の道を設けるなど水辺環境とのふれあいのある親水空間の保全・整備を図ります。
- ・農業用水路や湧水地、乙和池など地域に散在するため池については生活にうるおいをもたらす親水環境として、適切な保全と活用を図ります。

【環境に配慮した生活への改善】

- ・トキとの共生を通じた環境保全を図り、新エネルギーの導入など、環境先進地域としての取り組みの推進を目指します。
- ・集落における快適で安全安心な暮らしを確保するため、基幹道路とのアクセスや下水道整備などを図ります。

【コミュニティの維持】

- ・地域コミュニティの維持・活性化に向け、住民が集い、交流できるような施設の整備など、多世代がいきいきと暮らせる環境づくりを図ります。
- ・地域内の空き家などを活かして、来訪者との交流や二地域居住のための受け皿、または多世代交流の促進など、地域の活性化につながる仕組みづくりを図ります。

【地域の足の確保】

- ・集落から基幹集落や市街地へのアクセス確保を図るため、地域の実情に合った交通手段の検討を行います。

3. 子どもが健全に育ち、若者が定着するまちづくりの方針

【子どもが健全に育つ環境整備】

- ・地域住民による緑化活動など、子どもが参加できる機会の創出を支援します。
- ・安全な通学路の整備や、住宅地周辺における道路や河川の安全性確保に努めます。



【生活環境の整備】

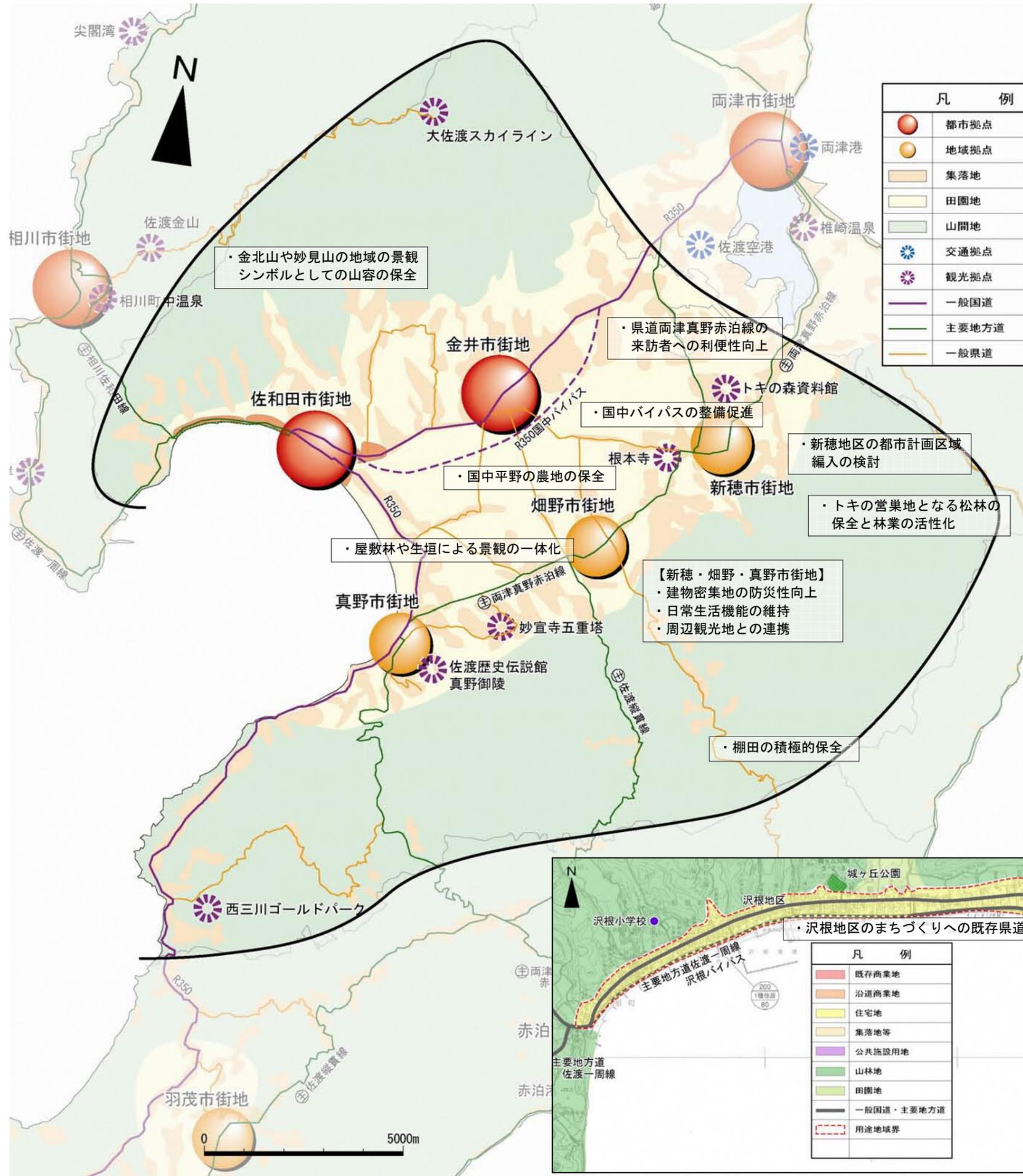
- ・市街地内の空き家を利用した低廉な住宅地の供給や集落地内での家庭菜園付一戸建て住宅の整備など、様々なスタイルの住宅整備を推進します。



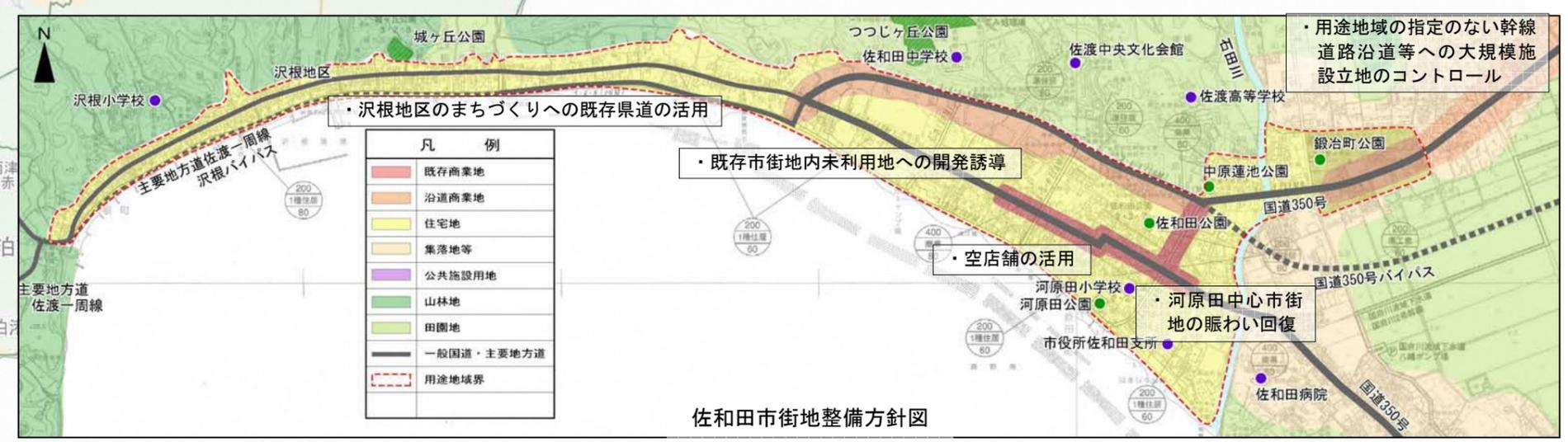
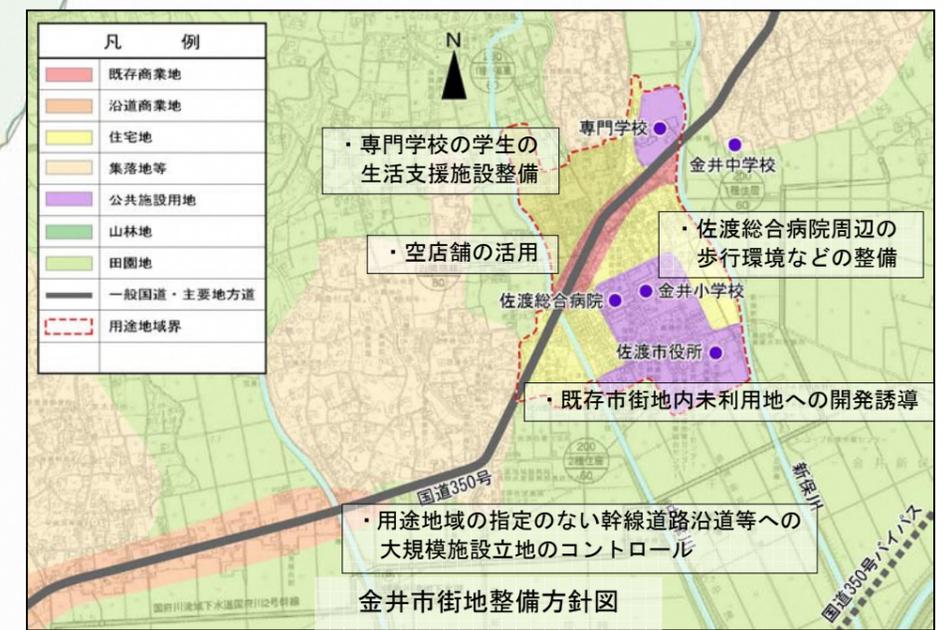
【雇用環境の整備】

- ・学校教育機関と地元企業との連携や、情報通信基盤整備の推進などにより、魅力的で安定的な就労環境の創出と若者の定着を図ります。
- ・既存市街地内の空き店舗等を利用して、起業やコミュニティビジネス、事業所の営業所などに利活用できるよう、情報基盤の充実など受け入れ環境の整備を促進します。

国中地域 整備方針図



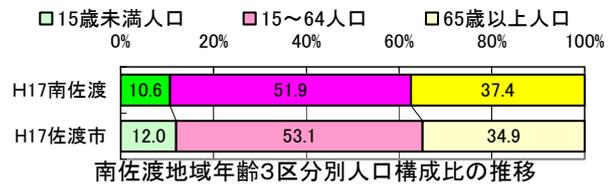
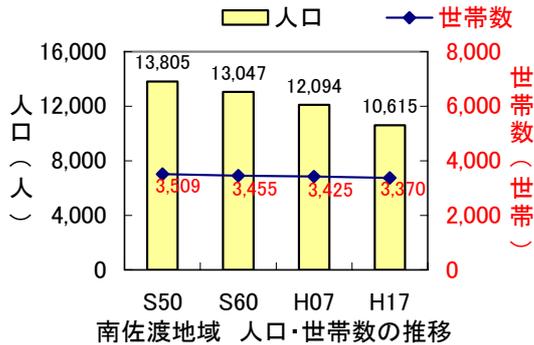
- 【住宅地の整備】
 - ・生活道路の充実
- 【地域の足の確保】
 - ・地域の実情に合った交通手段の検討
- 【道路沿道環境の整備】
 - ・沿道景観の形成
 - ・安全快適な歩行環境や自転車環境の整備
- 【雇用環境の創出】
 - ・教育機関と地元企業の連携、情報通信基盤の整備等
- 【歴史・文化資源の保全と活用】
 - ・寺社仏閣等の魅力向上と市民の学習・交流の場としての整備
 - ・文弥人形、やぶさめ、鬼太鼓などの伝承と活性化



4. 南佐渡地域

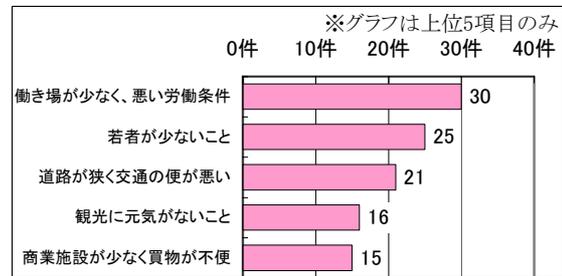
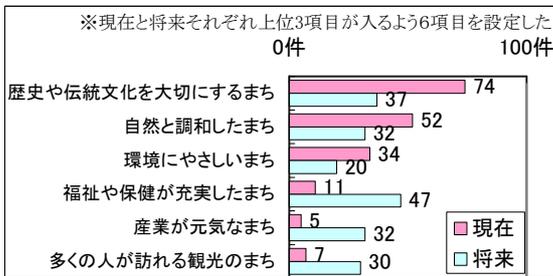
【地域の現状】

- ・佐渡市南部の旧小木町、羽茂町、赤泊村、畑野町(松ヶ崎地区)の区域
- ・全体面積のうち、山林地が約7割、水田が約1割、畑が1割程度
- ・人口は減少傾向、世帯数は横ばい状態
- ・65歳以上高齢者比率が37.4%で市平均を上回る



【アンケート結果】

- ・佐渡市の「現在のイメージ」と「将来のイメージ」は何ですか？
- ・佐渡の「良くないところ、改善したいところ」はどこですか？



【地域の声】～地域ワークショップ（全2回で出された意見）～

■ 改善すべき環境（第1回より）

- ・道路整備遅延（小木・沢崎地区～佐渡一周線（観光道路）、羽茂の度津線）
- ・高齢者憩いの場、若者向け娯楽施設の欠如
- ・バスの便数不足
- ・駐車場不足（宿根木）
- ・マリン施設（ヨットハーバー等）の整備を（小木・羽茂）
- ・案内板多設による景観阻害
- ・過疎化・高齢化の進行
- ・若者の働く場の不足
- ・農業担い手不足による耕地荒廃
- ・山間部のごみ不法投棄

■ 守りのばすべき環境（第1回より）

- ・豊かな自然・歴史文化
- ・多種多様な祭り、海洋レジャー
- ・温暖な気候による果実の宝庫

■ まちづくりの取り組み（第2回より）

- 純自然と人工的自然との調和
 - ・純自然と人工的自然の調和と俯瞰スポットの保全（徳和）、わに清水の保全と活用
- 既存観光資源の整備/連携/ネットワーク化
 - ・山城羽茂神社、ヨットハーバー、植物園周辺整備、度津神社で全国一の宮サミット、食資源の連携、南佐渡独自の観光ルート設定
- 多世代交流拠点整備の推進と地域再生
 - ・多世代が交流できる施設の整備、空き家空き地の有効活用
- 基幹道路の整備促進
 - ・小木、沢崎～真野椿尾の整備促進（一周線）

南佐渡地域の課題

【歴史・自然環境など地域資源の保全と活用】

- ・ 小木港、赤泊港、羽茂港の周辺整備と利便性の向上
- ・ 宿根木周辺の駐車場整備など来訪者のための環境整備
- ・ 素浜、沢崎灯台、松ヶ崎などの美しい海浜景観の保全

【南佐渡独自の資源の活用】

- ・ おけさ柿、みかん、洋なし、海産物などの保全と地域づくりへの活用
- ・ アースセレブレーション、海上相撲、つぶろさしなどの活用と交流促進
- ・ 海洋レジャーの拠点整備と活性化

【安全安心な暮らしと集落活性化】

- ・ 佐和田、両津方面へのアクセスの向上
- ・ 地域の足の確保による全域での生活利便性の確保
- ・ 小規模集落におけるコミュニティの維持と交流の促進

南佐渡地域の将来目標

1. 宿根木など歴史的遺産と自然の風情あるまち

重要伝統的建造物群保存地区である宿根木をはじめとした歴史文化遺産や美しい海岸の景観など、地域に残る多くの観光資源を保全するとともに、既存の交通拠点である小木港や赤泊港との連携など、資源相互を有効に活用した地域づくりを目指します。

2. 創意工夫とチャレンジ精神、新たな挑戦のまち

南佐渡の地域性を活かした農産物や海産物、温暖な気候を活用したマリンスポーツ、地域独自のユニークなまつり・行事などを活用し、地域住民が主体で考え、工夫しながら、新しい交流資源の創出と活用を目指します。

3. 支え合いにより高齢者が安心して暮らせるまち

既存集落地における生活基盤の整備や交通手段の整備により、活力の維持を図るとともに、地域コミュニティによる防災や地域の美化等を推進し、便利で暮らしやすい生活環境の形成を目指します。また、幹線道路の整備促進による両津地域や佐和田地域へのアクセス向上を目指します。

南佐渡地域の整備方針

1. 宿根木など歴史的遺産と自然の風情あるまちづくりの方針

【宿根木周辺の整備】

- ・重要伝統的建造物群保存地区である宿根木は昔の暮らしそのものが観光資源として残っていることから、今後とも生活と観光が融合した環境の保全を図ります。
- ・宿根木集落内を流れる称光寺川の保全に努めます。
- ・小木港～宿根木間の公共交通の改善など、アクセス向上を図ります。



【地域の特性を活かした整備】

- ・羽茂支所周辺は、病院、高等学校、消防署といった公共施設のほか大規模店舗も立地する南佐渡地域の中心地として、その都市機能の充実を図るとともに、他地域や周辺集落からのアクセスの向上に努めます。
- ・小木港周辺は南佐渡の玄関であることから、船舶と陸上交通の乗り継ぎ機能の強化など交通拠点としての整備を図ります。
- ・来訪者が佐渡の雰囲気を感じながら歩行、滞留できるような小木港周辺の整備を図ります。
- ・山林が背後に迫った港町である赤泊には漁村の面影を偲ばせる家並みが現存していることから、今後とも海と山の両方を楽しめる自然休養村としての環境保全・利活用を図ります。



【観光資源の利活用】

- ・佐渡一の宮の度津神社や羽茂城跡などの史跡、海運資料館や日本アマチュア秀作美術館などの特徴的な観光資源の魅力向上とともに、地域での学習や交流の場としての環境整備を図ります。
- ・温暖で穏やかな海辺の散策空間の創出や景観保全を図ります。
- ・観光客対応の駐車場の整備や地域の景観、環境に配慮した案内看板の設置を地域との調整のもと進めます。

【自然環境・景観の保全】

- ・南佐渡のリアス式海岸や真野湾の素浜など美しい海浜景観が残されていることから、これらを保全するとともに、名勝地として交流人口の拡大に向けた環境保全と整備を推進します。
- ・山林や水田の自然景観はもとより、南佐渡独特の柿畑や果樹園の景観を、重要な地場農産物生産基地の面からも保全していきます。



2. 創意工夫とチャレンジ精神、新たな挑戦のまちづくりの方針

【地域特性を活かした産業の活用】

- ・魚介類などの海産物をはじめとして、温暖な気候を利用したみかんやおけさ柿など、この地域にしかない特産品を活用し、体験農園や料理加工、食育への活用など、観光振興や地産地消の場としての環境整備を図ります。
- ・温暖な気候を活かした季節居住、二地域居住のための整備を促進するとともに、海洋性スポーツ・レクリエーション施設等の整備を図ります。

【地域の伝統行事の活用】

- ・ユーモラスな神楽（つぶろさし）の他、赤泊の海上相撲、小木のたらい舟など、交流・体験型の観光振興とともにイベント開催時の公共交通の臨時運行などにより、交流人口の拡大と地域の活性化を図ります。



3. 支え合いにより高齢者が安心して暮らせるまちづくりの方針

【集落環境の維持改善】

- ・既存の密集集落など車での通行が困難な地区においては、防災体制の強化とともに、安全な避難路の確保など、安心して暮らせる環境づくりを図ります。
- ・主要地方道佐渡一周線沿線や坂の多い住宅地などにおいては、急傾斜地対策による安全対策を強化します。



- ・既存集落地においては、幹線道路へのアクセスや下水道の整備など、生活基盤の改善を図ります。

【コミュニティの維持】

- ・地域内の空き家を活用した高齢者の憩いの場づくりや、コミュニティの結束による地域防災力、介護力強化を図ります。
- ・地域住民によるごみ拾いや緑化活動など、コミュニティによる美化活動を推進します。



【道路網の整備】

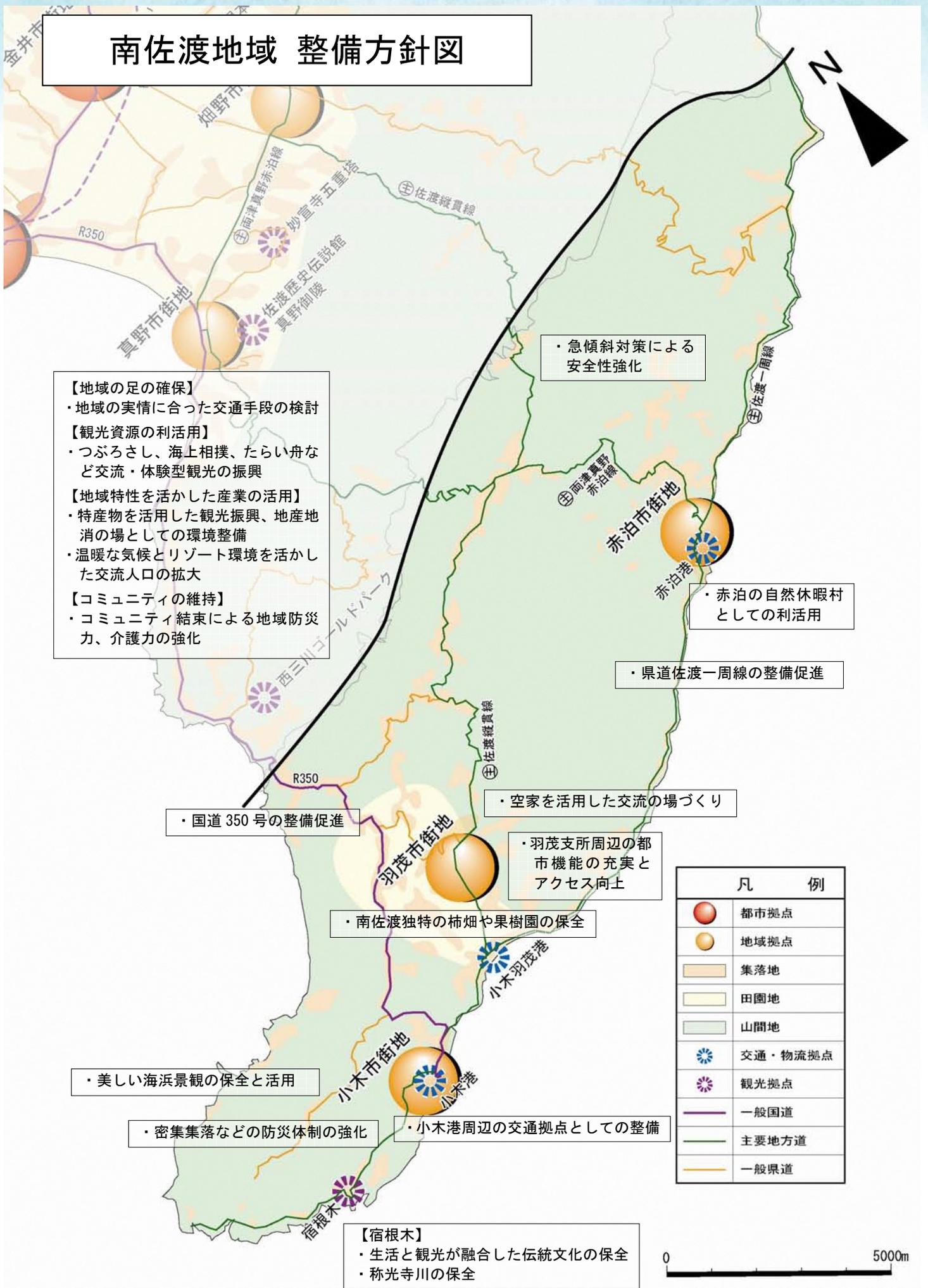
- ・島の中心である佐和田、金井、両津方面への交通アクセスの向上を図るため、国道350号や県道佐渡一周線の整備を関係機関に働きかけます。



【地域の足の確保】

- ・集落から基幹集落や市街地へのアクセス確保を図るため、地域の実情に合った交通手段の検討を行います。

南佐渡地域 整備方針図



- 【地域の足の確保】**
 - ・地域の実情に合った交通手段の検討
- 【観光資源の利活用】**
 - ・つぶろさし、海上相撲、たらい舟など交流・体験型観光の振興
- 【地域特性を活かした産業の活用】**
 - ・特産物を活用した観光振興、地産地消の場としての環境整備
 - ・温暖な気候とリゾート環境を活かした交流人口の拡大
- 【コミュニティの維持】**
 - ・コミュニティ結束による地域防災力、介護力の強化

・急傾斜対策による安全性強化

・赤泊の自然休暇村としての利活用

・県道佐渡一周線の整備促進

・国道350号の整備促進

・空家を活用した交流の場づくり

・羽茂支所周辺の都市機能の充実とアクセス向上

・南佐渡独特の柿畑や果樹園の保全

・美しい海浜景観の保全と活用

・密集集落などの防災体制の強化

・小木港周辺の交通拠点としての整備

【宿根木】

- ・生活と観光が融合した伝統文化の保全
- ・称光寺川の保全

凡 例	
	都市拠点
	地域拠点
	集落地
	田園地
	山間地
	交通・物流拠点
	観光拠点
	一般国道
	主要地方道
	一般県道

